



**ONE HEART**  
 Qu'est-ce que nous pouvons faire pour l'avenir?  
 NEWSLETTER  
 UNESCO  
 ASSOCIATED  
 SCHOOL  
 & ESD  
 VOL. 03



**BIODIVERSITY & ENVIRONMENT**

vol. 03 生物多様性と環境問題

**BIODIVERSITY**

地球には様々な自然があります。そして動植物から微生物まで様々な生きものが存在します。また、同じ種の中でも異なる遺伝子を持っていることがあります。生物多様性とはこの生態系・種・遺伝子といった3つの視点から見た、生きものたちの豊かな個性のことを指します。そしてそれは我々の生活に多くの恵みをもたらしてくれているのです。しかし、生物多様性は現在危機にさらされています。その主たる原因は人間の活動なのです。開発や乱獲、外来種の持ち込み、地球環境の変化などが原因で、絶滅の恐れのある動植物は増え続けています。

生物多様性が危機にさらされれば、大気や水、食べ物、さらには文化にまで影響がでるのです。世界的な問題に見えますが、この問題は我々の生活に直結しています。一人一人がこの問題を身近な問題として捉え、自分にできることを行っていくことが今求められています。

**Think globally, act locally**

**ENDANGERED SPECIES**

CHUBU1 × ESD

ONE WORLD ONE HEART

**ウシモツゴ**

学名：Pseudorasbora pumila  
 英名：Dwarf Topmouth Minnow

**分布・生息地**

濃尾平野に生息するコイ目コイ科に属する体長4~6cmほどの魚。同族のモツゴと比べて水深の深い場所を好む傾向にある。生息が確実に確認できるのは、東海地方の10カ所ほどだけである。特に、ため池などの止水域で見られる。



**特徴**

春から夏にかけてが産卵期で、雄はこの時期に体が黒っぽくなり、追星が現れる。産卵期には特に縄張り争いが激しくなるため、「ケンカモロコ」とも呼ばれる。用水路の改修やブルーギルなどの外来種が原因でその数は激減し、絶滅の危険が極めて高いとされる「絶滅危惧ⅠA類」に指定されている。

日進市在住の鈴木さんの家のため池で保護されていたウシモツゴを、本校の科学部で繁殖を目的として飼育してほしいとの依頼があり、現在に至る。

科学部では生物多様性と環境問題の視点を重視し、ウシモツゴを卵からふ化させ、稚魚を育てています。今年も12月に名古屋大学で行われるESDコンソーシアムにて発表予定です。また、科学部は今後、ヒマワリの種から地球に優しいバイオエタノールを抽出する実験を行っていきたいと思っています。

written by 1GA

**カテゴリー (ランク) 概要**

絶滅 EX	我が国では既に絶滅したと考えられる種
野生絶滅 EW	飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
絶滅危惧Ⅰ類 CR EN	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧ⅠA類 CR	ごく近い将来野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類 EN	ⅠA類ほどではないが、近い将来野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類 VU	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 NT	現時点での絶滅危険度は低いですが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足 DD	評価するだけの情報が不足している種
絶滅の恐れのある地域個体 LP	地域的に孤立している個体群で絶滅の恐れが高いもの

レッドデータブックより

日本に生息する野生生物について、生物学的観点から個々の種の絶滅の危険度を評価し、リストにまとめたものをレッドリストという。レッドリストに掲載された種について生息状況などを詳細な解説をしたものがレッドデータブックである。

**SCIENCE CLUB  
 ACTIVITIES**

金田 晴輝 神谷 勇成 藤倉 直弥  
 松下 慎之介 池戸 沙莉奈 矢野 愛実